

農業会の資金運用状況とその対策

昭和22・7・1

(静岡県下の事例)

一、静岡県下農業会系統機関に於ける資金吸収及び運用状況
最近の六ヶ月間に於ける静岡県下農業会系統機関の資金吸収状況は左の通りである。

(単位百万円、△減)

	静岡県下市町村農業会				静岡県農業会				農林中金静岡支所			
	残高	月末	対前月	増減	残高	月末	対前月	増減	残高	月末	対前月	増減
昨年十一月	一、五二六	△	一	△	一、二五四	△	九五	△	九五	△	三	△
十二月	一、五九六	△	七〇	△	一、三三七	△	八二	△	九三二	△	三六	△
本年 一月	一、六七一	△	七五	△	一、三八八	△	九	△	九六四	△	三二	△
二月	一、六四七	△	二四	△	一、三六九	△	五	△	九四四	△	二〇	△
三月	一、五八三	△	六四	△	一、一四三	△	二六	△	八〇八	△	一三六	△
四月	一、五七四	△	九	△	一、〇五八	△	八五	△	八〇〇	△	八	△

(註) 市町村農業会の預金残高としては新勘定預金の残高を掲げた。

右に依つて明らかな如く農業会系統機関の預金は本年一月乃至二月を峠として以後いづれも減少の傾向を示している。かゝる傾向に付ては季節的条件にも若干の理由があるが末端農業会に於ける預金吸収の不振がその最大原因であり、更に市町村農業会及び県農業会が、その吸収資金の運用に当つて、上級系統機関への預入以外の方面にその資金を差向けることが一層その傾向を強めているものである。一方市町村農業会の預金を自由預金と第一封鎖預金とに分けてその動きを見ると

(単位百万円、△減)

	自由預金				第一封鎖預金				合 計			
	残高	月末	対前月	増減	残高	月末	対前月	増減	残高	月末	対前月	増減
昨年十一月	三七七	△	五	△	一、三三九	△	五	△	一、五二六	△	一	△
十二月	四四四	△	一六七	△	一、二五二	△	六七	△	一、五九六	△	八〇	△
本年 一月	四八七	△	四三	△	一、一八四	△	三	△	一、六七二	△	五	△
二月	六〇二	△	一一五	△	一、〇四五	△	一三	△	一、六四七	△	二四	△
三月	六二二	△	一九	△	九六二	△	八	△	一、五八三	△	六四	△
四月	六三八	△	一七	△	九三六	△	三六	△	一、五七四	△	九	△

(註) ※ 本年一月第一封鎖預金の増加は柑橘代金の振込に依るもの。

右の如く自由預金は季節的変動は兎も角として大体に於て増加の傾向を示しているが、最近に於ては封鎖預金の引出額がそれ以上に達するため、総預金としては減少の傾向を示し、更に事業資金の増嵩等も加わつて県農業会からは預金の減少額以上に引出が行われたので、自由預金の増加も系統機関を通じて見れば全然資金繰りの余裕とはならなかつたわけである。

試みに本年三月末に於ける系統機関預け金の比率を前年同月末と比較して見ると、

(単位 百万円)

	静岡県下市町村農業会	静岡県農業会	農林中金静岡支所
二十一年三月	一、六一一(100%)	一、三五八(四四・二%)	一、一〇(六・七・〇%)
二十二年三月	一、五八三(100%)	一、一四三(七二・二%)	八八(五・六・〇%)

右の如く市町村農業会から県農業会への預入比率は吸収資金の八四・二%から七二・二%に低下し、更に県農業会から農中支所への預入比率は八六・九%から七〇・六%に低下している。即ち昨年三月末には市町村農業会に於て吸収された資金の六七・〇%が農中支所に預入せられていたのであるが、本年三月末に於ては僅かに五一・〇%が預入せられたに過ぎない。かくの如く系統機関への預入比

率はこの一年間に著しく低下しているわけである。然らば上級機関へ預入されぬ爾余の資金はどのような方面に運用されているのであらうか。次に市町村農業会に於ける資金の運用状況に付昨年十一月末と本年四月末とを比較して見ると

		昨年十一月末	本年四月末	比較増減(△)
預	金	一、三三三百万円	一、二一八百万円	△ 一一五百万円
系統機関	預け金	一、二五四	一、〇五八	△ 一九六
系統機関外	預け金	七九	一六〇	八一
現	金	二八	三八	一〇
有	価 証 券	七三	九一	一八
貸	出	二二	五一	二九
固 定 資 産		一九	三一	一二
購買販売利用事業		二三	一六	九三
計		一、四九八	一、五四五	四七

右の如く系統機関預け金のみが減少しそれ以外は悉く増加している。殊に系統機関外預け金及び事業部門に於てその増加ぶりが著しい。結果からいえば市町村農業会は系統機関から預け金を引出して之を事業部門へ廻し、現金、有価証券、貸出、固定資産等を夫々増加せしめた上、余剰金は系統機関外へ預け入れたことになるわけである。市町村農業会に於けるこの傾向は県農業会に直ちに影響し、更に県農業会自身も常に何等かの名目によつて農中預け金の引出しを策し、事業部門への転用を計っている。農中の資金繰りは著しく窮屈となつた。事業部門資金の増嵩は取扱物資の値上りに依り或程度已むを得ないとしても、六ヶ月間に五倍以上に増加しているのは明らかに事業部門の拡張強化を図つてゐることを示すものと思われる。下部機関に於て斯かる傾向が続く限り農中が窮地を脱し得ないのは当然であり、茲に於て市町村農業会及県農業会に系統機関としての自覚が要望されるわけである。

尚系統機関外預け金の増加が著しく昨年十一月末七九百万円、本年四月末一六〇百万円と約二倍になつてゐるのは、一般的に系統機関としての紐帯が緩み農中、県農の指導力が低下したことに依るものであるが、更に直接の原因としては

農業会の資金運用状況とその対策

左のようなことが考えられる。

(1) 農中資金繰りの窮迫化から県農業会を通ずる系統機関の資金手当が円滑に行かず、且最近では農家から相当纏つた金額の請求もあるため系統機関預け金の引出しでは間に合わないこと。

(2) 県農業会支部は一郡に一ヶ所しかなく預入引出共不便であること。

(3) 財産税、増加所得税、其の他税金の移納に際しては国税代理店である市中銀行に移納資金を預入して置く必要があること。

(4) 最近農村に於て生命保険の勧誘が次第に活潑となり、一方封鎖預金の運用策として之に應ずるものが多く、その払込は市中銀行宛の小切手に依るので、そのためにも市中銀行へ資金手当をする必要があること。

などが挙げられる。とにかくかくの如くして上級機関よりの資金手当の不円滑と下級機関の系統機関への預入手控えとは互ひに原因となり結果となつて、系統機関全体としての弱体化を齎すものと思われる。

又、以前から問題になつてゐた勸業大券購入特約預金は四分三厘乃至四分五厘の金利が運用の魅力となつてゐる。市町村農業会に於ける有価証券勘定が昨年十一月末七三百万円、本年四月末九一百万円と同期間中に一八百万円の増加を示しているのは之がためである。

尚事業資金の著増は主として取扱物資の値上りと取扱高の増加とによるものであるが、その外最近特に目立つた動きとしては、澱粉工場の新設、製粉機の据付け及びそれに伴ふ動力施設の増加、製塩及び味噌、醤油の製造開始などが挙げられる。又購買事業も次第に拡張されて今までは見られなかつたような品目(例へばラジオ等)が現われるようになり、極く一部ではあるが処によつては小デパート或いは委託の店のような状況を呈しているところもあるようである。

二、農村に於ける預金吸収不振の原因と今後の対策

現在の如き経済状況下に於ける農村の資金吸収不振の原因は大体左の四点に要約される。

- (1) 通貨金融政策に対する漠然たる不安と過去の経験に依る不信
- (2) 役員更迭等をもととする農業会に対する信用の動揺及び一般的貯蓄熱の欠如

- (3) 再生産資材の値上り及び過去の苦境から脱け出した反動としての浪費
- (4) 農家が自己財産の秘密性保持のため顔見知りの多い農業会には預金しないこと

右のうち通貨金融政策に対する不信不安は相当根強いものがあり、更にそれら一般農家の考へ方を啓蒙すべき立場にある農業会々長、専務理事を始めとする農業会職員に積極的熱意なく、中には自身或る程度の疑惑と不信を捨て切れぬ向がある程で貯金吸収熱は極めて低いものと見られる。

従つて農業会系統機関の正常化を図るためには

- (1) 単位農業会職員の通貨金融政策に対する不安を一掃し、資金蓄積の必要性を徹底的に認識せしむること
- (2) 農業会への預金は農業会の事業を通じ直接会員自身に利益をもたらすものなることを強調すること

が基礎的な条件であるが、更に強力なる措置として

- (1) 県農業会の金融部門と事業部門の経理を厳格に区分すること
- (2) 単位農業会に於ける預金増加分は一応全部県農業会に預入せしめること
- (3) 単位農業会の事業資金は県農業会に於て慎重監査の上割当てること
- (4) 県農業会の金融部門を農中に統合すること

が根本的な方策であると考へられる。然し乍ら目下の処単位農業会の預金は減少傾向にあり、且静岡県に於ては本年度茶葉資金の融資に当り農林中金の資金繰り逼迫が表面化し、それと時を同じうして資金運用委員会が発足したため、過般の共同次官通牒は農中の救済策なりとの感じを与へたことも否み難い状況にあり、今直ちに急進的な方策をとると反つて逆効果を招く恐れがあるので差当り本行としては資金運用委員会が自主的に系統機関の建て直しを図るよう右の線に沿つて漸進的に指導することがよいと思われる。

尚具体的な方策を二三挙げると

- (1) 単位農業会の預金増加を図るため
- (イ) 農業会の物資配給に当つて一部を預金の成績に応じて分配する方策(預金と物資とのリンク制)を考慮すること

- (ロ) 実際の資金吸収政策としては実質的效果を狙いなるべく目新しい貯蓄の実施(例へば福徳定期預金の売出し)と並行して行ふこと(単なる貯蓄勧誘は効果が薄く且妙味が薄い)

- (2) 県農業会への資金吸収を図るため

- (イ) 農業団体法施行規則第三四五条にある預金払戻準備金及び余裕金の運用方法に関する規定は実際問題として実効を収めていないから、今後は預り金総額に基いて系統機関に対する預入比率を大幅に規定すること
- (ロ) 単位農業会の県農業会に対する預金利率を特に優遇すること
- (ハ) 事業部門其の他系統機関に対する預入れ以外の方面への資金運用を系統機関への預入額に応じて規制すること(例へばその二〇%とする。二十一年三月末一六%、二十二年四月末三二%)

などが考へられる。

然し乍ら現状に於ては系統機関としての権が緩んで農林中金及び県農業会の下部機関に対する指導力が著しく低下し、市町村農業会また事態の認識と系統機関としての自覚に欠くる現在、各種の対策も唯承り置く程度に斥けられ、実効を伴はぬ惧れなしとしない。従つてその指導に徹底を期すると共にその実行如何を充分に監視する必要があるものと思はれる。(静岡支店 相川)

インフレーション下に於ける

預金通貨の動向

昭和22・10・1

一、はしがき

本稿は東京手形交換所加盟銀行の預金通貨並にその回転速度の動向を究明し、最近に於ける預金通貨の傾向を把握せんとするものである。

二、預金通貨の動向

何を以て預金通貨と看做すかに就いては学説上一定していない。通常は当座預